

氏名	三 宅 一 忠
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 171 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和41年 6 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	液性抵抗因子と癌に関する実験的研究 第1編 制癌剤投与時の血清 Properdin 低下に対する諸種 薬剤併用効果に関する実験的研究 第2編 血清 Properdin 上昇作用を有する薬剤の担癌生体 におよぼす影響に関する実験的研究 第3編 血清 Properdin 上昇作用および制癌性を有する薬 剤の作用機序に関する実験的研究
論 文 審 査 委 員	教授 田 中 早 苗 教授 砂 田 輝 武 教授 小 川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

担癌生体や制癌剤投与生体において、血清 properdin (以下 pr.) 値の低下があることより、抗腫瘍性因子の一指標として、pr. 値をとりあげた。各種薬剤をscreeningして、制癌剤投与時のpr. 値低下を、パントテン酸 (pa. A) , GABA, オロトン酸, ビタミンKおよび総合必須アミノ酸が防止することを認めた (第1編)。これら薬剤のうち、pa. A, GABAを Ehrlich 担癌マウスに単独あるいは制癌剤と併用投与すると、pr. 値低下阻止と延命効果がみられるが、オロトン酸、ビタミンKではいずれの作用もみられない (第2編)。ついでpa. A, GABAの作用機転の解析を目的として、invitroで直接 Ehrlich 癌に作用せしめると、その嫌気性解糖を亢め、担癌マウスに投与すると、肝カタラーゼ低下を防止する。pa. A, GABAのpr. 値に及ぼす影響はACTH投与時のそれに似て、cortisoneのそれと異なっている。以上のことより、pa. A, GABAは腫瘍細胞に直接作用するのではなく、高位の脳中枢を介して抗腫瘍性因子を亢めるものと考えた (第3編)。

岡山医学会雑誌 77巻8.9合併号 昭和40年9月30日掲載

論文審査の結果の要旨

三宅一忠提出の「液性抵抗因子と癌に関する実験的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

即ち、抗腫瘍性因子の一指標として praperdin をとりあげそれにより各種薬剤を Screening して、制癌剤投与時の Pr. 値低下を Pantoten酸GABA, オロトン酸, V. K. 総合必須アミノ酸が防止することを認めている。これら薬剤のうち Pa. 酸GABA, を Ehrlich 担癌マウスに単独あるいは制癌剤と併用投与すると, Pr. 値の低下が抑制され延命効果がみられたが, オロトン酸, V. K. ではいずれの作用もみられなかった。ついで Pa. 酸, GABA の作用機転の解析を目的として, invitro で直接 Ehrlich 癌に作用せしめると, その嫌気性解糖を亢め担癌マウスに投与すると, 肝カタラーゼ低下を防止する。Pa. 酸, GABA の Pr. 値に及ぼす影響は ACTH 投与時のそれに似て Cortisone のそれと異なっている。以上のことから Pa. 酸, GABA は腫瘍細胞に直接作用するのではなく, 高位の脳中枢を介して抗腫瘍性因子を亢めるものと推論している。

以上の如く, 本論文は新しい知見に富み学術上有益であり, 著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有するものと認める。